

みんなで考えてみよう、北海道の子どもたちのこと

子どもの貧困対策 北海道フォーラム

2025年 **11月7日 金** 13:30-17:30

北海道庁旧本庁舎（赤れんが庁舎）ホールA

松本伊智朗さんより問題提起

北海道大学教育学研究院名誉教授、こども家庭審議会
こどもの貧困対策・ひとり親家庭支援部会委員

あすのば給付金受給者調査 北海道地区集計の発表

三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社研究員ほか

こども家庭庁から

～地域におけるこども・子育て支援を考える～

胡内敦司さん(こども家庭庁支援局家庭福祉課企画調整官)

参加のみ
オンライン参加者は
オブザーバー参加可能

好きなテーマを選び、
自治体や道内民間団体の方と
の意見交換にぜひご参加
ください！

自治体からの事例報告

～北海道内外の事例から～

- ・北海道【北海道の基本計画】
- ・旭川市【ファミリーサポートセンター事業】
- ・道外自治体
 - ①千葉県松戸市
【スクールソーシャルワーカーの取り組み】
 - ②東京都八王子市
【食支援の取り組み】

グループ討議

【展開予定テーマ】

乳幼児期の子育て支援・若者支援
教育格差/支援・居場所・食支援
社会的養護支援・ひとり親支援など

テーマごとの担当者については
ホームページや裏面でご確認
ください。

オンラインも同時中継予定
参加無料

参加申込みは
こちらから



主催：公益財団法人あすのば

〒107-0052 東京都港区赤坂2-18-1 赤坂ヒルサイドビル5F

TEL：03-6277-8199 FAX：03-6277-8519

MAIL：info@usnova.org

共催：北海道大学大学院教育学研究院附属子ども発達臨床
研究センター

後援：こども家庭庁、北海道、札幌市、北海道教育委員会、
札幌市教育委員会、北海道社会福祉協議会(以上予定)

助成：公益財団法人キリン福祉財団



FAX送り状不要

FAX 03-6277-8519 WEB www.usnova.org
ウェブサイトからもお申込いただけます⇒



子どもの貧困対策 北海道フォーラム 参加申込書

日時 2025年11月7日(金) 13時30分～17時30分
会場 北海道庁旧本庁舎(赤れんが庁舎) ホールA
北海道札幌市中央区北3条西6丁目1
オンライン (Zoom) 参加も受付中
(前日までにZoomのID・パスコードなどメールいたします)

参加費 無料

☐ 会場参加 / ☐ オンライン参加

ふりがな
お名前

ご所属・お肩書

お住まいの都道府県・市町村

電話

FAX

E-mail

【グループ討議 ～テーマ担当者～】

- ・乳幼児期の子育て支援 (川田学さん)
- ・若者支援 (加藤弘通さん 北海道大学大学院教育学研究院教授)
- ・教育格差・支援 (山田大樹さん NPO法人「訪問と居場所漂流教室」代表理事)
- ・居場所 (深堀麻菜香さん 一般社団法人「たいせい子どもの未来サポート」理事)
- ・食支援 (片岡有喜子さん NPO法人「フードバンクイコロさっぽろ」理事長)
- ・社会的養護支援 (二本松一将さん 元児童相談所一時保護所職員)
- ・ひとり親支援 (平井照枝さん NPO法人「ひとり親とこどもふぉーらむ北海道」代表理事)

【北海道フォーラム開催にあたって】

全国各地で子どもの貧困対策を推進することを目的として、当法人設立当初から2023年5月までに「子どもの貧困対策 全国47都道府県キャラバン」が完遂しました。開催地の都道府県に共催・後援をいただき、各地で子ども・若者支援に取り組む支援者の方々も交え、それぞれの地域の状況にあわせたプログラムで実施しました。全国キャラバンでの地方自治体・支援団体とのつながりをさらに発展させ、北海道内の市町村を超えて各地域での子どもの貧困対策がさらに前進することが大切だと考えています。各地での先駆的な取り組みのヨコ展開や実効性の高い自治体施策の実現につなげるためにこのフォーラムを開催します。



【公益財団法人あすのばについて】

子どもの貧困対策法成立から満2年を迎えた2015年6月19日に設立し、今年で10年となりました。あすのばの事業は、①調査・研究とそのデータなどに基づいた政策提言、②全国の支援団体への中間支援、③物心両面での子どもたちへの直接支援の3つの柱です。これまでに、高等教育無償化・子どもの貧困対策法改正・大綱改定・コロナ禍での低所得子育て給付金などの政策提言が実現。「入学・新生活応援給付金」の支給(28,093人に10億9608万円給付)などの事業をすすめてきました。また、もう一つの大きな特徴は、子どもがど真ん中・「センター」のポジションとして、孤立し声を出せない子どもたちの声も大切にする運営に務めています。全国各地の子ども・若者委員が中心となり、子ども・若者の声を直接、政治や行政に伝え、さまざまな政策の実現につなげています。